

〈論文〉

『オズの魔法使い』と米国の通貨政策

川 畑 壽*

The Wonderful Wizard of Oz
and Monetary Policy in the United States
Hisashi Kawahata

Abstract

This article analyzes the Free Silver period of American history. As was shown by Hugh Rockoff, *The Wonderful Wizard of Oz* was not only a child's tale but also a sophisticated commentary on the political and economic debates of this period. Prices fell dramatically between the 1870s and the 1890s. Debtor farmers in the Midwest, and South increased the real burden of their debt. They thought Free Silver would increase the money supply and thereby alleviate their debt burdens. The free coinage of silver was a substitute for the role of a central bank. It was not until 1913 that the Federal Reserve Act became law. In this paper, a full explanation is given to the reason why the Federal Reserve System was established so late and the railroad went into the prostration.

1. はじめに

この小論の目的は、「金単本位制」(gold monometallism)にするか「金銀複本位制」(gold and silver bimetallism)にするかで揺れた1800年代後半における米国の通貨制度について考察することである。「金単本位制」と「金銀複本位制」のどちらを選択すべきかという問題は、デフレからどのようにして脱却するかという問題であった。ハイルブローナー (Robert L. Heilbroner) が指摘したように、この時代の主要な課題はデフレであった。卸売物価は、1823年から1848年までに25%下落した ([9], pp.38-39)。南北戦争によって上昇したけれども、卸売物価の下落は、第1表が示すように、戦争の終結した1865年から1890年までに50%を上回った。複本位制にして貨幣供給を増やせば景気が良くなる、と人びとは考えた。後述するライマン (Lyman Frank Baum) の『オズの魔法使い』(*The Wonderful Wizard of Oz*, 1900) について研究したディジェ (Ranjit S. Dighe)

* 亜細亜大学経済学部教授 kawahata@asia-u.ac.jp

編の『歴史学者のオズの魔法使い』(*The Historian's Wizard of Oz*, 2002)の巻末に付けられた「貨幣数量説」の解説は、 $MV=PT$ から、 $\dot{M}/M + \dot{V}/V = \dot{P}/P + \dot{T}/T$ となるので、貨幣供給が増加 (\dot{M}/M) すれば、物価が上昇 (\dot{P}/P) し、産出が拡大 (\dot{T}/T) する、と人びとが信じたことを指摘している。素朴な貨幣数量説の流布には、ウィリアム・ハーヴィー (William Hope Harvey) の小冊子『鑄貨の金融教室』(*Coin's Financial School*) などが寄与した。この小冊子は、1894年にベストセラーとなり、どの列車でも、どこのタバコ屋でも売られ、誰もが読んだ、という ([8], p.269)。

これから説明する『オズの魔法使い』との関係から、まず農民や労働者を狙上に載せるけれども、複本位制論者 (bimetallist) には、フランシス・ウォーカー (Francis A. Walker) が指摘するように ([15])、彼が通貨膨張論者 (inflationist) と呼ぶ農民や労働者のほかに、銀産出州の住人たちや銀生産者たち、アレグザンダー・ハミルトン (Alexander Hamilton) に同調して経済の収縮には反対するが通貨膨張論者ではない人たちもいるので、その人たちには折に触れて言及する。

2. 『オズの魔法使い』の含意

第1表に示されるように、農産物価格と物価は長期にわたり下落した。農産物価格の下落によって農民の所得は減少し、物価の低下によって農民が農用機械や設備を購入したときにできた負債の実質価値は大幅に増加した。バーナンキ (Ben Bernanke) が2002年に、「デフレーションアメリカで<これ>が起きないようにするためには」と題する講演のなかで、「彼らの債務負担は実質ベースで大幅に増加していたのであり、それは南北戦争後の金本位制への復帰に続いて生じた持続的なデフレの結果だった」([23], 12頁)と、不動産担保貸付の重圧に苦しんでいた農民に言及して、物価安定の維持におけるFRBの役割を強調したが、米国に中央銀行が設立されたのは、1913年になってのことである。

米国経済は1873年10月(山)から1879年3月(谷)にかけて、65か月という史上最長の景気後退を経験した。この不況の最中の1877年に賃金カットに起因する大規模な鉄道ストが発生した。共和党のヘイズ (Rutherford B. Hayes) 大統領は、連邦軍を動員して鉄道ストを鎮圧した。1892

第1表 農産物価格指数・鉄鋼卸売価格・銀価格および物価指数

年	1860	1865	1870	1875	1880	1885	1890	1895
農産物価格指数 (1910-14=100)	77	148	112	99	80	72	71	-
鉄鋼卸売価格 (100ポンド当りドル)	48.0	98.6	106.8	68.7	67.5	28.5	31.8	24.3
銀価格 (純オンス当りセント)	135.0	133.7	132.8	124.0	115.0	106.5	104.6	65.28
消費者物価指数 (1967=100)	27	46	38	33	29	27	27	25
卸売物価指数 (1910-14=100)	93	185	135	118	100	85	82	-

[出所] アメリカ合衆国商務省編『アメリカ歴史統計 第I巻』(斎藤・鳥居監訳)、東洋書林、1999年。

年には賃金カットからペンシルヴェニア州にあるカーネギー鋼鉄会社（Carnegie mills）のホームステッド（Homestead）工場でストライキが発生。1894年にはアメリカ鉄道組合会長ユージン・デブス（Eugene V. Debs）がプルマン車両製造会社（Pullman Company）のストライキを指導、ゼネ・ストに発展し、全米で26万人以上の鉄道労働者が参加した。会社側の要請に応じ、民主党のクリーヴランド（Stephen G. Cleveland）大統領は、連邦軍を派遣してストを鎮圧した（[1], p.322）。

上述のような窮乏に喘ぐ農民や労働者を「現代のお伽話」のなかに見事に組み込んだのが『オズの魔法使い』で、この『オズの魔法使い』に登場する西の魔女の生涯を述べながら、この時代の人間の間の偏見と迫害、労働運動と弾圧というような殺伐とした現実の社会状況を描いたのがグレゴリー・マグワイア（Gregory Maguire）の『オズの魔法記』（廣本和枝訳、大栄出版、1996年。*Wicked-The Life and Times of the Wicked Witch of the West*, 1995.）であった。

こうした状況のなかで人びとは、マーガレット・マイヤーズ（Margaret G. Myers）が指摘するように、貨幣を増やせば繁栄すると考えるようになる。「所得が絶対的にも相対的にも下落しつつある農民や労働者にとって、必要とされるものはより多くの貨幣である、ということは自明のことと思われた。よりおおくの貨幣は個人にとって結構なことである、という常識の問題はあまりにもはっきりしているので、論理の問題として、より多くの通貨は国家にとって結構なことであるということが、結果としてでてくるように思われる」（[27]、239頁）。

米国では、ジュディ・ガーランド（Judy Garland）主演の映画が、毎年テレビで放映されているという。日本には、大村美根子訳（偕成社）、幾島幸子訳（岩波書店）、宮本菜穂子訳（松柏社）、河野万里子訳（新潮社）というように、4種類の邦訳がある。

『オズの魔法使い』は、サイクロンによってマンチキンの国（the land of the Munchikins）に飛ばされてきたドロシー（Dorothy, 正直で親切で勇気があるアメリカ人の象徴）という少女が、ドロシーの家の下敷きになって死んだ東の国の悪い魔女（the wicked Witch of the East, 東部の財界の象徴、あるいは不況であった1897年に大統領を退任したクリーヴランドのこと）の銀の靴を履いて、北の国の良い魔女（thegoodWitchoftheNorth）の教えに従い、わらの案山子（theScarecrow stuffed with straw, 西部の農民の象徴）、東の国の魔女によって人間から変容させられてしまったブリキの木こり（the Tin Woodman, 産業労働者の象徴）、臆病なライオン（the cowardly Lion, William Jennings Bryan のこと）とともに、オズ大王（the Great OZ）に会うために黄色いレンガの道（金本位制度のこと）をたどってエメラルドの都（the Emerald City, ワシントン D.C. のこと）に行くという物語である。ドロシーたちは、失業救済のために公共事業を実施するよう要求して、1894年3月にオハイオ州マシロンからワシントンをめざして徒歩で行進した失業労働者の集団であるコクシーの軍隊（Coxey's army）を想起させるものであった。

ドロシーたちがエメラルドの都に行く目的は、彼女と彼女の仲間たちとの会話から判然とする。

“Yes,” said the Woodman, “at last I shall get my heart.”

“And I shall get my brain,” added the Scarecrow, joyfully.

“And I shall get my courage,” said the Lion, thoughtfully.

“And I shall get back to Kansas,” cried Dorothy, clapping her hands.

ドロシーの目的は、カンザスの自分の家に帰る方法をオズに教えてもらうことであったが、その願望は叶えられることになる。南の国の良い魔女（the good Witch of the South）がドロシーに、こう言う。

“The Silver Shoes,” said the Good Witch, “have wonderful powers. And one of the most curious things about them is that they can carry you to any place in the world...”

銀には不思議な力があり何でもできる、というのは、どういうことか。『Ozの魔法使い』のOzは、金の単位 ounce のことである。オズ大王は、1896年の大統領選においてマッキンリー（William McKinley）に資金援助をし、彼の勝利に貢献したマーク・ハナ（Marcus Alonzo Hanna）である。前述のサイクロンは自由銀鑄貨運動（free silver movement）のことで、それを主導したのが、大統領選挙でのマッキンリーの対立候補ブライアン（William Jennings Bryan）であった。南部が良い魔女に統治されていたのは、南部が一般に自由銀鑄貨に共感的だったからである。銀の不思議な力（wonderful powers）とは、銀が自由に鑄貨されれば、通貨供給量が増えて景気が回復し、人びとが疲弊から救われる、ということである。ロックオフ（Hugh Rockoff）が指摘するように、『オズの魔法使い』はもっとも愛されたアメリカの童話であろうが、「ポピュリストの時代の政治的・経済的論争についての程度の高い注釈」（[13], p.739）でもあった。

自由銀鑄貨運動についてのボームのこの注釈に光をあて、さらによく見えるようにしてくれたのがリトルフィールド（Henry M. Littlefield）の論文「オズの魔法使い：ポピュリズムについての寓話」（The Wizard of Oz : Parable on Populism, 1964）であり、ロックオフの論文「貨幣的寓意物語としての『オズの魔法使い』」（The “Wizard of Oz” as a Monetary Allegory, 1990）であった。

さて、西の国の悪い魔女は、ドロシーの銀の靴を自分のものにしたいと、こういうことをした。

She placed a bar of iron in the middle of the kitchen floor, and then by her magic arts made the iron invisible to human eyes.

西の国の悪い魔女とは、マッキンリーのことである。台所の床のまんなかに鉄の棒を置くという策略は、国際的な複本位制の協定など成立しそうにないのに、国際協定が締結されたら複本位制を再建するとしたマッキンリーの提案のことで、この提案には相当多数の支持があった。金単本位制を信奉するマッキンリーの目的は、自由銀鑄貨運動を分裂させることであった。ドロシーは鉄の棒につまずいてころび、脱げた片方の靴を悪い魔女に取られる。悪い魔女はさらに、こう言うのである。

“...someday I shall get the other one from you.”

銀の靴のもう片方も奪って、金単本位制にするとの所信の表明だが、マッキンリーは実際に金単本位制を実現した。それが1900年の「金本位法」（Gold Standard Act）の制定であった。

第2表 金および銀の生産

(単位：1,000 純オンス)

年	a 金生産	b 銀生産
1850	2,419	39
1855	2,661	39
1860	2,225	116
1865	2,575	8,701
1870	2,419	12,375
1875	1,619	24,530
1880	1,742	30,319
1885	1,538	39,909
1890	1,589	54,516
1895	2,255	55,727
1900	3,830	57,647
1905	4,266	56,272

[出所] アメリカ合衆国商務省編『アメリカ歴史統計 第I巻』(斎藤・鳥居監訳)、東洋書林、1999年。

立腹したドロシーが魔女に水をかけると、魔女はとけてなくなる。

“This made Dorothy so very angry that she picked up the bucket of water that stood near and dashed it over the Witch, wetting her from head to foot.

Instantly the wicked woman gave aloud cry of fear, and then, as Dorothy look at her in wonder, the Witch began to shrink and fall away.

ロックオフが指摘するように、悪い魔女は自然の有害な力でもあった。水をかけると魔女がとけたように、乾燥した平原に雨が降れば、問題がなくなる。1890年代には「降雨線」が東へ移動したため、カンザスやネブラスカの農民は、農産物価格の下落による苦難に加え、日照りによる収穫の減少という苦難にも対処しなければならなかったのである ([13], p.752)。

脳味噌をもらった案山子は、“When I get used to my brains I shall know everything.”と言って喜ぶが、旱魃・虫害・農場経営・累積債務などといった諸問題に対処するため、何でも知らなければ、農民は生存することができない。

前にプルマン車両製造会社のストライキに言及したが、デブスのアメリカ鉄道組合は黒人の組合加入を認めなかった。「人間として連帯することによってのみ、それぞれの利益は護られる」([17]、180-181頁)のだと得心することができるかどうかは、「アメリカ人の心」によってきまる。

権力と対峙するには、とりわけ労働者は連帯せねばならず、お互いを結びつける心が必要なのだと『オズの魔法使い』は、教えてくれているように思われる。

第3表 米国の景気循環

谷	山	谷	拡張期間	後退期間
1861/6	1865/4	1867/12	46	32
1867/12	1869/6	1870/12	18	18
1870/12	1873/10	1879/3	34	65
1879/3	1882/3	1885/5	36	38
1885/5	1887/3	1888/4	22	13
1888/4	1890/7	1891/5	27	10
1891/5	1893/1	1894/6	20	17
1894/6	1895/12	1897/6	18	18
1897/6	1899/6	1900/12	24	18

[出所] NBER, US Business Cycle Expansions and Contractions から作成。

3. 「複本位制」から「金本位制」への転換

18世紀には不換紙幣の乱発によるインフレから、国民は甚大な損害を被った。グリフィン (Edward Griffin) の指摘によれば ([19]、376頁)、1750年代末の物価上昇率は、コネティカット州800%、カロライナ州900%、マサチューセッツ州1000%、ロードアイランド州2300%という有様であった。紙幣の所有者は、紙幣の価値の低下によって、甚大な損害を被った。こうした経験から、1788年に合衆国憲法を制定するとき指導者たちは、とりわけインフレ問題に留意し、不換紙幣の発行を禁止したのである。経済活動にとって正貨が十分ではないという批判に、ワシントンはこう答えたという。「人類の知恵ではまだ紙幣の信用を長期的に支える仕組みは考え出されていない。したがって紙幣の発行量とともにその価値は低下するし、交換される商品の価格はそれ以上に上がるだろう」 ([19]、380-381頁)。

建国当初はインフレを嫌悪したけれども、後述するように、米国の通貨制度は金銀複本位制から金本位制へと移ってゆき、この金本位制のもとで通貨収縮に直面した国民は、デフレからの脱却を渴望して自由銀鑄貨によって貨幣供給の増加を要求するようになる。貨幣供給の減少と増加は、第3表に示されるように、景気の拡張と後退の期間を大幅に変動させた。通貨供給量の調整ができなかったのは、中央銀行が存在しなかったからで、「連邦準備法」(Federal Reserve Act) が成立したのが1913年12月、準備銀行が業務を開始したのは1914年11月になってからであった。

- (1) 1792年の貨幣鑄造法 (An Act establishing a Mint, and regulating the Coins of the United States) 制定

...there shall be from time to time struck and coined at the said Mint coins of gold, silver, and copper of the following denominations, values, and descriptions, viz. : Eagles—each to be of the value of ten dollars or units, and to contain two hundred and forty-seven grains and four eighths of a grain of pure ...

...the proportional value of gold to silver in all coins which shall by law be current as money within the United States be as fifteen to one, according to quantity in weight, of pure gold or pure silver ; that is to say, every fifteen pounds weight of pure silver shall be of equal value in all payments with one pound weight of pure gold ...

...it shall be lawful for any person or persons to bring to the said Mint gold and silver bullion, in order to their being coined ; and that the bullion so brought shall be there assayed and coined as speedily as may be after the receipt thereof ...

『オズの魔法使い』は、金銀複本位制を渴望する人びとの物語であったが、建国当時の米国は金銀複本位制であった。1792年に「貨幣鑄造法」が制定され、米国は初代財務長官アレグザンダー・ハミルトン（Alexander Hamilton）の提案した金銀複本位制を採用した。1ドルは純金 24.75 グレイン、純銀 371.25 グレイン、金銀比価は 1 対 15 であった。

(2) 1834 年の貨幣法（An Act concerning the gold coins of the United States, and for other purposes）
改正

...the gold coins of the United States shall contain the following quantities of metal, that is to say : each eagle shall contain two hundred and thirty-two grains of pure gold ...

イーグルは 10 ドル金貨であるから、この「貨幣法」の改正によって、1 ドルが純金 24.75 グレインから純金 23.20 グレインへと減少した。純銀 371.25 グレインはそのままであったから、金銀の法定比価は 1 対 16 になった。市場では 1834 年において金銀比価は 1 対 15.7 であった。負債の返済が金でも銀でもよければ、法定比価が 1 対 16 であるから、銀で返済すれば 1,600 オンスの負債でも、市場で 1,570 オンスの銀で 100 オンスの金を買って返済すれば、銀を 30 オンス節約することができる。従って 1 ドルの銀貨は、金貨で約 102 セントの価値を持つことになる。当然人びとは支払いに悪貨である金を使おうとするから、良貨である銀は次第に貨幣として使われなくなる。ガルブレイス（John Kenneth Galbraith）が言及した、銀を市場で売り、金を買って造幣局へ持って行った人びとも、そこそこの利益は得たであろう（[18]、140 頁）。

(3) 1853 年の貨幣鑄造法（An Act amendatory of Existing Laws relative to the Half-Dollar, Quarter-Dollar, Dime, and Half-Dime）制定

...the weight of the half-dollar or piece of fifty cents shall be one hundred and ninety-two grains, and the quarter-dollar, dime, and half-dime shall be, respectively, one half, one fifth, and one tenth

of the weight of said half-dollar.

...The silver coins issued in conformity with the above section shall be legal tenders in payment of debts for all sums not exceeding five dollars.

それぞれの銀貨の銀含有量は、1/2ドル＝純銀192グレイン、1/4ドル＝96グレイン、10セント＝38.4グレイン、5セント＝19.2グレイン。補助貨幣としての銀貨の品位を引き下げ、法貨の通用力を5ドルに制限した。通貨から銀ドルを排除して、金単本位制を樹立しようとするものであった。カリフォルニアで金鉱が発見され、第2表からその傾向がうかがわれるように、金の生産が1851年266万純オンス、1852年290万純オンス、1853年314万純オンスへと増加した。この結果、金の価値が低下して、1853年には市場での金銀比価が1対15.4になった。よって1ドルの銀貨は、金貨で約104セントの価値を持つ。1859年には105セントになった。誰も100セントの支払いに104セント、あるいは105セントの価値がある銀貨を使わない。こうして良貨である銀貨は、グreshamの法則によって、貨幣としてまったく使われなくなった（[11], p.78）。

シカゴ大学のローレンス・ラフリン（Laurence Laughlin）教授は、こう断言する。後年人びとは1873年における銀の廃貨を批判するが、「合衆国における銀の実質上の廃貨（real demonetization）は1853年になされていた。……1873年の法による名目上の廃貨（nominal demonetization）の20年も前に」（[11], p.80）。

(4) 1862年の法貨法（The Legal Tender Act）制定

1861年4月に南軍が連邦のサムター砦（Fort Sumter）を攻撃して戦端が開かれた南北戦争は、1865年4月に南軍が降伏して終結した。戦争は4年間にわたり、莫大な支出が必要とされた。歳入の確保と戦費の調達のために、まず1861年8月に「歳入法」を制定、800ドルを超える所得に3%の所得税を賦課する、としたが、マイヤーズによれば、これには紆余曲折があって、1864年6月には累進税率が細分化され、所得が600～5,000ドルでは税率5%、5,000～10,000ドルでは税率7.5%、10,000ドルを超過すると税率が10%になった（[27]、193頁）。1862年2月には「貨幣法」が制定され、連邦財務省に1億5,000万ドルの不換紙幣を発行する権限が与えられた。財務省は1862年3月に裏側が緑色のグリーンバック（greenback）紙幣の発行を開始。1862年7月、1863年3月と、度重なる紙幣の増発によって、発行総額は4億5,000万ドルになった。このため、第1表が示すように、消費者物価は1860年から1865年にかけて70%も上昇した。1866年3月には、両院ともグリーンバック紙幣の削減を承認した。これによって1867年12月にはグリーンバック紙幣の数量は3億5,600万ドルになったが、1868年2月になると紙幣の数量を削減することが禁止され、1874年1月に約3億7,300万ドル、1874年6月には3億8,200万ドルになった。

(5) 1873年の鑄造法（An Act revising and amending the Laws relative to the Mints, Assay-offices, and Coinage of the United States）制定

...the silver coins of the United States shall be a trade dollar, a half-dollar, or fifty-cent piece, a quarter-dollar, or twenty-five-cent piece, a dime, or ten-cent piece ; and the weight of the trade dollar shall be four hundred and twenty grains troy ; the weight of the half-dollar shall be twelve grams (grammes) and one half of a gram (gramme); the quarter-dollar and the dime shall be respectively one half and one fifth of the weight of said half-dollar ; and said coins shall be a legal tender at their nominal value for any amount not exceeding five dollars in any one payment.

1873 年 2 月には、「鑄造法」(The Coinage Act) が制定された。下院で 110 対 13、上院で 36 対 14 と、簡単に可決されている。これは、金本位制への移行を意図する議員たちと東部の銀行家たちとの共謀によるものであった ([1], p.329 ; [5], p.114)。しかしながら、既述のように当時の銀貨には金貨以上の価値があったし、さらに人びとは問題の本質を理解することができなかったから、この問題への人びとの関心は低かった。このことについてはマイヤーズが、こう指摘している。「1873 年の鑄造法が、1873 年 2 月 12 日に最終的に法律となったとき、大衆にはほとんど注目されなかった。例えば、『ニューヨーク・タイムズ』(*New York Times*) は、その法律が可決されたときにも、何ら言及しなかったし、2 カ月後には、貿易銀貨の鑄造に関して、短いニュース記事をのせただけであった」([27]、246 頁)。

この鑄造法は、純良銀 371.25 グレインを含む銀貨の鑄造を中止した法律として、また第 3 表に示されるような、1873 年 10 月を山とする 65 か月にもわたる不況の原因として有名だが、これらは誤解である ([11], p.93)。たとえばミルトン・フリードマン (Milton Friedman) は、論文「1873 年の罪悪」(The Crime of 1873) ([7]) においてローレンス・ラフリンを批判するけれども、マイヤーズが指摘するように、当時銀貨は流過程から消えていた。すなわち、「1805 年までに 150 万ドル以下が鑄造され、1806 年から 1836 年にかけては、全く鑄造されなかった。その年以降 1870 年までに、毎年およそ 160,000 ドルが鑄造されていたが、それらの大半は海外へ持出され、ごく少量が合衆国内に流通していた」([27]、243 頁)。1873 年の鑄造法は、ラフリンが指摘するように、「1853 年貨幣鑄造法の直接の結果を法的に認識したにすぎない」([11], p.92) のである。

1873 年の恐慌は、ポール・ジョンソンが指摘するように、「ほとんどが鉄道建設といかがわしい関連会社への無分別な投機」によるものであった。その結果、「ニューヨーク株式取引所が 10 日間閉鎖されるなど、アメリカがこれまでに経験した中で最悪の不景気となった。1876 年から翌年にかけて 18,000 以上もの企業がつぶれ、鉄道のほとんどが倒産した」([20]、399 頁)。政府は景気後退に対処するため、1873 年から 74 年にかけて、2,600 万ドルのグリーンバック紙幣を再発行した。

(6) 1875 年の正貨支払再開法 (An Act to provide for the Resumption of Specie Payments) 制定

1879 年 1 月 1 日に正貨との兌換を再開し、グリーンバック紙幣の流通総額を 3 億ドルに減少させることになった。このグリーンバック紙幣の兌換・回収の撤回と、1873 年の恐慌によって暴落した農産物価格を上昇させるためにグリーンバック紙幣の増発を要求したのが 1874 年に結成され

第4表 種類別流通通貨

(単位:1,000ドル)

年	金貨	銀貨・補助銀貨	合衆国紙幣	州法銀行券	国法銀行券
1860	207	21	—	207	—
1870	81	9	325	2	289
1880	226	69	328	—	337
1890	374	110	335	—	182
1900	611	142	318	—	300

[出所] アメリカ合衆国商務省編『アメリカ歴史統計 第Ⅱ巻』(斎藤・鳥居監訳)、東洋書林、1999年。

たグリーンバック党 (the Greenback Party) であった。グリーンバック党は、ひととき党勢を拡大するけれども、1878年以降次第に衰退し、人民党に合流することになる ([28], Vol.13, p.426)。

(7) 1878年銀貨鑄造法 (An Act to authorize the coinage of the standard Silver Dollar, and to restore its legal-tender character) 成立

...the Secretary of the Treasury is authorized and directed to purchase, from time to time, silver bullion, at the market price thereof, not less than two million dollars worth per month, nor more than four million dollars worth per month, and cause the same to be coined monthly as fast as so purchased into such dollars ...

1875~77年に下院の鉱山業委員会委員長であったミズーリ州のブランド (Richard P. Bland) 下院議員が銀貨の復活を要求する法案を提出。下院を通過したが上院で拒否され、アイオワ州のアリソン (W. Allison) 上院議員の法案修正によって成立したのがブランド=アリソン法 (the Bland-Allison Act) であった。これによって財務省は市場価格で1か月200万ドル以上、400万ドル以下に相当する銀地金を買い上げ、銀貨に鑄造することになった。自由銀貨鑄造を要求する諸勢力は、鑄造が無制限でなかったのが不満であった ([5], p.116)。

(8) 1890年シャーマン銀買入法 (An Act directing the purchase of silver bullion and the issue of Treasury notes thereon, and for other purposes) 制定

...the Secretary of the Treasury is hereby directed to purchase, from time to time, silver bullion to the aggregate amount of four million five hundred thousand ounces, or so much thereof as many be offered in each month, at the market price thereof, not exceeding one dollar for three hundred and seventy-one and twenty-five hundredths grains of pure silver, and to issue in payment for such purchases of silver bullion Treasury note of the United States to be prepared by the Secretary of the Treasury ...

第1表に示されるように、1865年から1890年にかけて、農産物価格は50%、銀価格も22%下

落していた。1890年7月から景気も後退した。ノース・ダコタ、サウス・ダコタ、モンタナなどの銀生産者や農民の不満を解消するために、上院財政委員会の委員長の名にちなんで、シャーマン銀買入法（Sherman Silver Purchase Act）と呼ばれる法律が制定された。財務省が450万オンスの銀地金を1ドル＝371.25グレインを超えない限り毎月市場価格で買い入れ、その代金を財務省発行の紙幣（Treasury note）で支払った。米国が金本位制から離脱するのではという懸念から、この紙幣が金に兌換され、政府保有の金が大量に流出した。金準備の減少から信用の収縮が生じ、その影響によって、第3表に示されるように1893年1月を山とする景気後退となった。当時の経済の状況をガイストが、こう素描している。「全国で500の銀行、1万5000の企業が破綻し、失業者の数が激増した。1893年末、アメリカの鉄道会社の3分の1近くが破産を申し立てるなど1873年以来の厳しい不況の時代が訪れていた」（[16]、147頁）。

銀生産の増加とともに、銀価格は下落をつづけ、第1表が示すように1895年には65.28セントまで低下した。失業と貧困の原因は銀の廃貨だと主張する人びと、16対1の旧比率で複本位制の復活を要求する人びとの増加。このように銀自由鑄貨へと動いてゆく当時の情勢をマイヤーズが、簡潔にこう記述している。「シャーマン法のもとでの銀の買上げ量の増大は、毎年およそ5,000万トロイオンスに達したが、世界の産出量の増大による価格への引下げ効果を打消すことはできなかった。1873年には1年当たり6,300万オンスから、これが1892年までには15,200万オンスへと増大し、その価格は下落しつづけた。1893年には、価格は65セントへと下落し、銀の関係者は、ブランド＝アリソン法やシャーマン法によって負わされていたような、量への制限の何もない、銀の自由鑄造を世に訴えつつあった」（[27]、255頁）。

(9) 1893年シャーマン法の銀買入条項廃止（An Act to repeal a part of an act approved July fourteenth, eighteen hundred and ninety, entitled “An act directing the purchase of silver bullion and the issue of Treasury notes thereon, and for other purposes.”）

クリーヴランド大統領は1893年11月に、シャーマン法の銀買入条項廃止法案に署名した。財務省の金準備は減少しつづけた。金準備を補充するため、大統領はJ. P. モルガン社を中心とするシンジケートに委嘱して、海外の投資家に6,500万ドルの債券を売り、政府財政を破綻から救った（[16]、148-149頁）。

4. 合衆国銀行と国法銀行

(1) 北米銀行（Bank of North America）

1781年、独立以前における北米大陸の中央機構であった大陸会議（Continental Congress）が「北米銀行」を認可、1782年に開業した。1781～84年に連合政府の財務総監であったモリス（Robert Morris）の尽力によって設立され、独占的な権限を与えられた。「当時の連邦政府には独

第5表 1809年の第一合衆国銀行の貸借対照表（単位：100万ドル）

資 産		負 債	
米 国 政 府 債	2.2	銀 行 券	4.5
貸出し、主として60日 満期割引手形	15.0	政府・その他銀行および 個人による預金	8.5
州 法 銀 行 預 金	0.8	資 本 金	10.0
正 貨	5.0	未 配 当 利 潤	0.5
土 地 ・ 建 物 （ 減 価 ）	0.5		
総 計	23.5	総 計	23.5

[出所] ベックハート『米国連邦準備制度』（矢尾次郎監訳）、東洋経済新報社、1978年、12頁。

自の通貨がなかったから、北米銀行券は交換手段として大きな魅力をもっていた。……基本的には民間銀行だったが、中央銀行として機能することが意図され、実際にそう機能した」（[19]、394頁）けれども、銀行券の増発と信頼の低下、さらにモリスの政治権力の衰退もあって、北米銀行は再認可を受けられず、1783年末にペンシルヴェニア州の州法銀行になった。

（2）第一合衆国銀行（the First Bank of the United States）

1791年2月、財務長官アレグザンダー・ハミルトンの提案によって設立された。フィラデルフィアに本店を置き、8支店を開設した。資本金は1,000万ドルで、連邦政府は200万ドル出資し、同額を借用した。1809年の貸借対照表が示すように、合衆国銀行は政府の銀行として機能するだけでなく、手形割引をする商工業金融機関でもあった。けれども1796年の卸売物価が1791年のその71.8%も上昇しており、物価の安定には寄与しなかったことが判然とする。第一合衆国銀行は、認可を更新されず、1811年に廃止された。本店はステファン・ジラード銀行（Bank of Stephen Girard）になった。認可を更新されなかったのは、ベックハート（Benjamin H. Beckhart）が指摘するように、「州法銀行の銀行券過剰発行の傾向を抑制するにあたっては、第一合衆国銀行は強力な政治的反対を生みだした。この政治的反対は、（同行の設立を認可した）当初の法律が憲法違反であると信じている人々や、第一合衆国銀行は敵対的な英国の利害関係によって支配されていると確信している人々によってさらに拡大された」（[25]、12頁）からであった。この政治的対立の背景には、ジェファースンとフェデラリストのハミルトンとの対立があった。ジェファースン（Thomas Jefferson）は、憲法は議会が銀行を創設する権限を認めていないと主張し、ハミルトンは経済活動を拡大するには貨幣供給の増加が必要であって、憲法は議会が銀行を創設するのを許容すると反駁した。ハミルトンの伝記を書いたロン・チャーナウ（Ron Chernow）に言わせれば、ハミルトンは経済問題に精通していたが、ジェファースンは財務にまったく疎く、ジェファースンにとって銀行とは、「貧乏人から金を巻き上げ、農家を圧迫し、質素な共和主義を墮落させるぜいたく好きを生むための仕掛け」（[22]、203頁）であった。チャーナウは保守派と進歩派との対立ととるが、

そうではなく対立の本質は通貨の膨張＝経済の崩壊とみるか、通貨の供給＝経済の繁栄とみるか、なのである。

ちなみに、後年の1819年に連邦最高裁判所は、フェデラリストのマーシャル（John Marshall）長官のもとで、「合衆国銀行は議会が憲法上の権限を遂行するための＜必要かつ適切な＞手段である」（[19]、418頁）から合衆国銀行は合憲だと判断した。

（3）第二合衆国銀行（the Second Bank of the United States）

「1812年対英戦争」による連邦財政の悪化や全国で通用する流通手段の必要から全国的規模の銀行の設立が計画され、ようやく1816年に第二合衆国銀行が設立された。資本金は3,500万ドルで、同額の銀行券を発行することができた。放漫経営から破産の危機に瀕したが、チェブス（Langdon Cheves）によって改革され、後任のビドル（Nicholas Biddle）によって発展を促進され、中央銀行として機能した。議会は上下両院とも再認可法案を可決したが、1832年にジャクソン大統領が再認可を拒否した。理由は（2）と同様であった。ジャクソンは健全通貨を信奉していた。大統領に再選されると、1833年10月から政府の預金を合衆国銀行から州法銀行に移管させはじめた。ビドルは信用収縮でこれに対抗し、経済的混乱の責任をジャクソンに負わせようとした。1834年3月に上院は、26対20で大統領譴責決議を可決した。だが1834年4月には下院が、大統領を擁護する次のような一連の決議を採決した。（1）合衆国銀行を再認可すべきでない。134対82で可決。（2）預金を回復すべきでない。118対103で可決。（3）経済危機は合衆国銀行が故意に発生させたのかどうか調査する議会特別委員会を設置する。175対42で可決（[19]、430頁）。第二合衆国銀行は1836年に認可期限が満了するとともに廃止され、同年ペンシルヴェニア合衆国銀行となったが、1841年2月に倒産した。

1833年から1864年まで、州法銀行は財務省資金の預託機関となった。政府預金の増加から、第6表に示されるように、州法銀行券は1833年から1837年までの5年間に63%も増加した。合衆国銀行に拡張的経営を抑制されてきた州法銀行や潤沢な資金の必要な新興企業家たちは、合衆国銀行の廃止を歓迎した。州法銀行や新興企業家たちも、合衆国銀行に反対していたのである。上記の1864年までというのは、1864年に議会が、国法銀行を公的資金の預託機関とすることを決定したからである。

しかしながら、第二合衆国銀行の廃止によって、次のような弊害が生じた。①救済してくれるかもしれない金融機関がなくなり、経済の変動が頻繁になった。②合衆国銀行の支援によって債券を発行していたルイジアナ州やミシシッピ州などは、融資が受けられなくなり、債券の利子が払えなくなった。

1857年に起こったパニックは、安定した銀行制度の必要を痛感させた。1848年から始まったゴールドラッシュは、西部へと人口を大移動させ、それとともに西部準州に小規模な州法銀行が乱立して、独自の銀行券を大量に発行した。借金によるビル建設のバブルが発生したが、1857年に

第6表 州法銀行券の膨張

(単位: 1,000 ドル)

年	州法銀行券	増加率 (%)	合衆国総通貨	増加率 (%)
1832	91,500		121,900	
1833	91,500	0.0	122,150	0.2
1834	94,840	3.7	135,840	11.2
1835	103,692	9.3	154,692	13.9
1836	140,301	35.3	205,301	32.7
1837	149,186	6.3	222,186	8.2
1838	116,139	▲22.2	203,639	▲8.3

[出所] アメリカ合衆国商務省編『アメリカ歴史統計 第Ⅱ巻』(斎藤・鳥居監訳)、東洋書林、1999年。

バブルは崩壊した。オハイオ生命保険信託会社 (Ohio Life Insurance Company) が支払不能で倒産し、経済的混乱が全国に広がった ([1], p.233)。

(4) 国法銀行

1863年2月には「国法銀行法」が可決され、連邦政府が認可する銀行、すなわち国法銀行 (national bank) が設立された。国法銀行は、米国債を担保として国法銀行券を発行した。国法銀行制度は安定していた。ベックハートによれば、その安定は下記のような規定に依拠していた。国法銀行は、大統領が任命する通貨監督官に検査され、定期的に状況報告を提出させられた。厳格な資本必要限度と貸出制限があった。国法銀行はそれぞれ、「それが所在する市の人口にもとづいて一定の最小限度の資本を持つことを要求」([25]、27頁)された。貸出しは実業家・農家・株式仲買人に対して行われ、1864年の法律は「一取引先に対する貸出しを資本金の10%まで」([25]、28頁)に制限した。

国法銀行の発展とともに、国法銀行券が米国の主要な通貨となった。1865年には、731の州法銀行が国法銀行に改組した。州法銀行券は急速に減少し、1863年に238,677,000ドルあったものが、1878年には806,000ドルになり、1879年には流通しなくなった。

この国法銀行制度には、ベックハートが指摘したように、次のような重大な欠陥があった。

- ① 国法銀行券の発行が、第7表に示されるような減少する連邦政府の公債に基づいていたために、
 - a) 毎年秋の季節的通貨需要の増加に対応して通貨供給が増加しなかったため、金利が季節的に大幅に変動し、
 - b) 恐慌のとき預金を現金に換えようとしても通貨供給が不足して、1873年、1893年および1907年には、銀行での現金支払いが停止された。
- ② 準備市にある国法銀行は準備率が25%で、その1/2までニューヨークのような中央準備市の国法銀行に預金として保有してもよいとされた。地方都市にある国法銀行は準備率が15%で、その3/5まで準備市または中央準備市の国法銀行に預金することができた。準備資金はニューヨー

第7表 連邦政府公債の減少

年	1865	1870	1875	1880	1885
公債総額（億ドル）	26.8	24.4	21.6	20.9	15.8

[出所] アメリカ合衆国商務省編『アメリカ歴史統計 第Ⅱ巻』（斎藤・鳥居監訳）、東洋書林、1999年。

クへ流れ、その大部分は株式仲買人に融資され、株式市場に投入された。恐慌になるとニューヨーク市の銀行は、融資した資金を回収することができず、法的最小限度を超える準備も維持していなかった。預金の引き出しに応じることができないほどであったから、緊急な融資の拡張などできるわけがなかった。「最後の貸手」の欠如は、明白であった。

③ 「銀行引受手形」のための市場が発達していなかった。銀行引受手形は流動的でなかった。流動性が必要な銀行はニューヨークの証券市場でオーバーナイトのコール・ローンを利用した。「銀行引受手形」を公定割引率で割り引いてくれる中央銀行がなく、資金をコール・ローンに依存する銀行の経営は安定しなかった。

ベックハートは、以下のように結論する。「かくしてついに、銀行券発行の特権を持ち、商業銀行の準備を保有する一つの中央銀行のみが、アメリカ銀行制度の円滑な機能に必要な欠くべからざる貨幣および信用の弾力性を与えることができるということが一般的に認められるようになった」（[25]、34頁）。

5. 鉄道建設の拡大と破綻

鉄道建設は、第8表に示されるように、1840年代から旺盛であって、米国の営業鉄道路距離は急速に拡大した。1862年7月には、鉄道に公有地の無償供与、長期資金の貸与などをするとした「パシフィック鉄道法」（the Pacific Railroad Act）が制定され、ユニオン・パシフィック鉄道（Union Pacific Railroad）とセントラル・パシフィック鉄道（Central Pacific Railroad）が認可された。1869年にはユニオン・パシフィック鉄道とセントラル・パシフィック鉄道が連結され、最初の大大陸横断鉄道（transcontinental railway）が開通した。だが、1873年9月になると、過剰な鉄道投機などにより恐慌が発生することになる。

鉄道建設の拡大と破綻をいくつかの事例によって検討することにしたい。ユニオン・パシフィック鉄道の凋落についてはフォーゲル（Robert William Fogel）の論考があり、J. クック商会の破綻

第8表 営業鉄道路の距離

（単位：マイル）

1830	1840	1850	1860	1870	1880	1890
23	2,818	9,021	30,626	52,922	93,262	166,703

[出所] アメリカ合衆国商務省編『アメリカ歴史統計 第Ⅱ巻』（斎藤・鳥居監訳）、東洋書林、1999年。

については田口陽一の秀逸な論文「J. クック商会の成立とその倒産」がある。それらに依拠しながら、まずクック商会と鉄道金融について素描すると、次のようになる。

ジェイ・クック (Jay Cooke) は1839年にクラーク商会 (E. W. Clark & Company) に勤務。3年後に21歳でジュニア・パートナーになる。E. W. クラークの死後、1856年には同商会のシニア・パートナーになるが、同商会は1857年に過大な資金を鉄道やその他の投資に固定したため流動性準備の不足から倒産した。

クックは1858年に、サンベリー・エリー鉄道 (Sunbury & Erie Railroad) の資金調達に関与し、成果を取めた。さらに、ペンシルヴェニア州とメリーランド州が共有する廃線鉄道の再建のためにフランクリン鉄道 (Franklin Railroad) を創立、地方路線アイアントン鉄道 (Ironton Railroad) の建設金融を担当して経営権を掌握、サザン・パシフィック鉄道 (Southern Pacific Railroad) やスチュベンビル・インディアナ鉄道 (Steubenville & Indiana Railroad) の社債売出しに関与、というように鉄道業界と密接な関係を維持した。1861年1月にクックは、フィラデルフィアで小規模な個人金融業を営むジェイ・クック商会 (Jay Cooke & Company) を設立した。1861年4月に勃発した南北戦争は、クック商会の業務を鉄道金融から政府金融へと転換させた。同商会は約20万ドルの政府公債を落札した。300万ドルのペンシルヴェニア州債の発行では、ドレクセル商会とともに公債を大衆向けに売り出して成功しただけでなく、その売上げ代金をクック商会に預託させ、巨額の運転資金を獲得した。1862年10月の6%利付き5年据置き20年償還の連邦政府公債の売出しでは、幹事金融業者に指名され、零細投資家層に積極的に販売した。1865年1月に計画された7年据置き30年償還の8億ドルを超える連邦政府公債は、クック商会が引き受けて、同年7月までに全額完売した。クック商会は、政府公債を売り出し、その代金を預託させ、商会の運転資金とし、また運用することによって多額の利益を取得して、最大の政府証券ディーラーとなっていたが、政府預託金制度の終焉と短期債の借換え完了による政府金融の激減から、政府金融から鉄道金融へと反転せざるをえなかった。

セントラル・パシフィック鉄道 (Central Pacific Railroad) やミズーリ鉄道 (Missouri Railroad) を統合して、ユニオン・パシフィック鉄道 (Union Pacific Railroad) が1869年5月に大陸横断鉄道を完成させたことに触発され、鉄道金融で後れを取っていたクック商会は鉄道への関与を拡大しようとした。しかしミネソタ州のダールス (Duluth) とワシントン州のタコマ (Tacoma) を結ぶ建設中のノーザン・パシフィック鉄道 (Northern Pacific Railways) の社債販売は、米国および欧州の金融逼迫によって失敗した。1873年9月にジェイ・クック商会は、鉄道への過度の融資によって、鉄道建設ブームの終焉とともに破綻した。同時にノーザン・パシフィック鉄道も倒産したが、後年ドレクセル・モルガン商会などの大金融業者たちによって再建された。

1893年にはフィラデルフィア・アンド・レディング鉄道 (Philadelphia and Reading Railroad) 破産。鉄道の破綻は、実利を無視した無謀な拡張のためであったが、政府の膨大な土地と資金の供与がこの拡張を促進した。鉄道を拡張すれば莫大な利益を享受することができた。たとえば、クレ

ディ・モビリエ (Crédit Mobilier) 事件があった。この会社 (Crédit Mobilier of America) はユニオン・パシフィック鉄道建設のために設立された会社で、工事費用を過大に請求して巨額の資金を着服。株主 (配当) や議員 (株式の譲渡) に不正な利益を供与した。それらは1872年9月にニューヨーク『Sun』紙によって暴露された ([28], Vol.8, pp.173-174)。鉄道の破綻によって、鉄道の拡張とともに発展してきた鉄鋼業も経営不振に陥り、それは他の産業にも波及した。

6. 銀自由鑄貨運動

(1) 銀自由鑄貨運動の経過

その経過を素描すれば、以下のようになる。1877年に農民の銀貨無制限鑄造要求が激化。1880年代末から農民窮乏。旱魃・費用の上昇・昆虫の害・高金利・主要商品作物 (小麦・トウモロコシ・綿花など) の価格下落。南部農民同盟に参加していた農民のほぼ半数が人民党に参加。南部や中西部の白人農民=債務者で、物価下落が債務の実質負担を増加させた。1890年代になると人民党 (the People's party of America, 通称the Populist party) が自由銀鑄貨 (free silver) を要求。1891年5月に全国人民党の結成 (共和党・民主党の2大政党に第3政党の人民党が参入)。1892年7月にネブラスカ州オハマで人民党第一回全国大会開催。人民党の基本綱領のオハマ綱領 (1892年) は、銀貨の無制限鑄造、グリーンバック紙幣の増発、国法銀行の廃止、鉄道・電信・電話事業の公有などを要求。けれども、第24代大統領 (1893~97年) のグローヴァー・クリーヴランド (Stephen Grover Cleveland) は、金本位制維持の立場を堅持した。

1893年には金本位制破綻の不安から金の海外への流出が増加。外国人によるアメリカ証券の売り増加、株価大暴落、491の銀行が支払い停止、74の鉄道会社・15,000以上の商社が倒産。国内および海外からの金の需要により財務省の金準備減少。このため通貨の収縮が生じた。

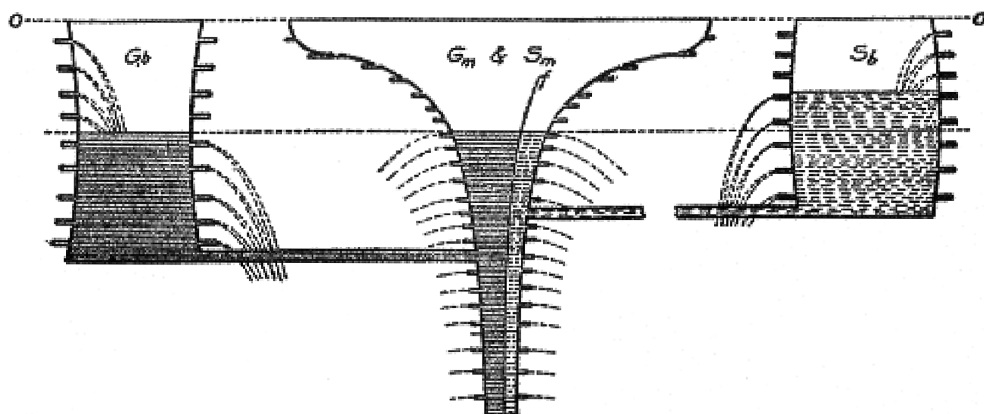
1893年4月に財務省の金準備が法定最小限の1億ドルを下回る。鉄道会社や企業が倒産し、1893年から1897年までに銀行が800行以上破綻した。失業率は20%近くまで上昇。農業の不振で、何千人もの農民が土地を失った。

1894年から1895年にかけて自由銀鑄貨運動が盛んで、その中心はブライアン下院議員であった。ちなみに彼は、アメリカ複本位連盟から助成金を受けていた。その連盟は、マーカス・デーリー (Marcus Daly) やF. オーガスタス・ハインゼ (F. Augustus Heinze) などの鉱山経営者たちによって組織されていた。1895年に民主党銀支持派 (Silver Democrats) が形成される。金本位論者 (東部) と銀自由鑄造論者 (西部・南部) に民主党は分裂する。

1896年7月6日にシカゴ民主党全国大会が開催され、銀支持派が攻勢に出た。貨幣の問題を以下の最高の問題とし、1:16の比率によって銀貨の無制限自由鑄造を要求した。なぜ貨幣の問題が最高の問題なのか。ブライアンは、演説において、こう答える。

...when we have restored the money of the Constitution all other necessary reform will be pos-

第1図 跛行本位制度



〔出所〕 Irving Fisher, *Elementary Principles of Economics*, 1915, p.235.

sible ; but that until this is done there is no other reform that can be accomplished.

7月9日のこのブライアン「金の十字架」(The Cross of Gold)の演説は、満場を熱狂に巻き込んだ、という。その演説は、こう締めくくられた。

You shall not press down upon the brow of labor this crown of thorns; You shall not crucify mankind upon a cross of gold.

こうして民主党は、当時36歳であったブライアンを大統領候補に指名した。

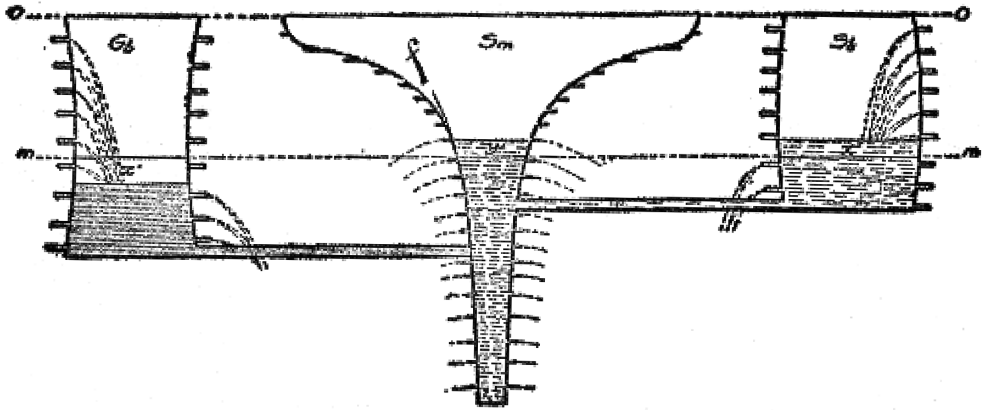
(2) 自由銀鑄貨の帰結

ミルトン・フリードマンは、複本位制より単本位制のほうがすぐれており、銀単本位制より金単本位制のほうがすぐれている、とする従来の所説を批判し、とりわけ複本位制を擁護するけれども〔6〕、複本位制が、すなわち銀貨の自由鑄造が実現されていたら、当時の米国経済はどうなったであろうか。

① 当時の米国では、金貨および銀貨が本位貨幣 (standard money) と認められていた。しかし「1873年の鑄造法」によって金貨の自由鑄造は再開されたが (金地金貯蔵所 G_b -gold bullion と貨幣貯蔵所 $G_m \& S_m$ とはパイプが連結される)、銀貨の鑄造は停止され (銀地金貯蔵所 S_b -silver bullion とのパイプは切断される)、第1図のような、いわゆる跛行本位制度 (limping standard) になっていた〔3〕, p.235)。

こうした状態において、第2図に示されるように銀の生産が大きいとき、もし銀貨の鑄造が再開されたならば、アーヴィング・フィッシャー (Irving Fisher) が指摘したように、良貨である金貨が駆逐され、第2図のように〔3〕, p.228)、グレシャムの法則 (Gresham's law) どおり、悪貨である銀貨のみが流通するようになったであろう。1896年の大統領選挙で敗北して以降、ブライアンが自由銀鑄貨について発言することはなかったようである〔14〕)。1912年に出版された自著で

第2図 複本位制度の失敗



〔出所〕 Irving Fisher, *Elementary Principles of Economics*, 1915, p.228.

第9表 流通速度 (%)

年	1979	1980	1981	1982	1983
流通速度変化率	4.8	1.8	5.3	-4.7	-1.1

〔出所〕 *Economic Report of the President*, Supplement から作成。

フィッシャーは、こう書いている。「複本位制は今日、歴史的関心の対象であるにすぎない。もはや行われていない」 ([3], p.235)。

② この小論の冒頭には、貨幣数量説に言及して、貨幣供給が増加すれば、物価が上昇し、産出が拡大するかのような説明があったけれども、そうなるかもしれないのは流通速度 V が安定している場合であって、たとえば米国経済における流通速度 (第9表) のごとくであったなら、貨幣供給が増加しても、物価が上昇し、産出が拡大する、というようなことにならない場合がある。実際、流通速度は、1870年代は年0.9%の低下でしなかったのに、1880年代には年5.2%も低下していた ([13], p.743)。

以上のようなことが現実の問題にならなかったのは、当時たまたま金の増産と精錬技術の向上があつて金の供給が増加し、物価が騰貴したからで、ブライアンらの自由銀鑄貨の主張は、政策提言としては大変素朴なものであつた、と言ったら過言であろうか。

③ また、ホフマン (Charles Hoffmann) のように、90年代の不況は貨幣的要因によって簡単に説明できるものではないことを指摘する人もおり ([10])、ここでは、景気循環との関連においてアルヴィン・ハンセン (Alvin H. Hansen) の記述に注目したい。ハンセンは、長期波動の上昇期を1843～73年、下降期を1873～97年とし、その要因についてこう説明している。「新鉄道路哩数は40年代の中期から70年代へかけて急速に上昇傾向をたどったが、それ以降は80年代中期に一度大きくもり返しただけで、そのあとは上昇をやめ、終には90年代にいたって急坂を下るように下降した」 ([24], 29頁)。

不況の要因としての鉄道への過剰投資については既に述べたが、不況は偶発的なものではなく、周期的な景気循環によるものだというのが、ハンセンの主張である。

④ デフレによって農民の実質債務負担が増加した。だが、債務のあるすべての農民がインフレから利益を得られるとは限らない。予想インフレ率の上昇は、債務に対する金利の上昇をもたらすから、農産物価格の上昇から得られる利益は霧消する。ロックオフは、こう指摘している。「農民たちには債務救済など、ほとんどないか、まったくないであろう。ブライアンはこのことを承知していた」([13], p.753)。

(3) 1896年の選挙

① 大統領候補は、民主党がブライアンで、自由銀鑄貨の実現を主張。共和党はウィリアム・マッキンリーで、金本位制による繁栄と安定を主張した。マッキンリーの大統領選挙の際に資金援助をし、選挙を勝利に導いたのがオハイオ州クリーヴランドの実業家、マーク・ハナ (Mark Hanna, 1837~1904)、本名マーカス・アロンゾ・ハナ (Marcus Alonzo Hanna) であった。

② 選挙結果は、合衆国商務省編『アメリカ歴史統計』によれば、以下のようであった。

投票率 80% ほど。アイオワ・イリノイ・インディアナ・オハイオ・ミシガンなどの中西部では 95% を若干上回った。共和党マッキンリーの勝利で、一般選挙得票数 710 万票 (得票率 51.06%)、大統領選挙人得票数 271 票。ニューヨーク・ペンシルヴェニア・イリノイ・オハイオ・マサチューセッツなどを獲得。ブライアンは敗北した。一般選挙得票数 649 万票 (得票率 46.68%)、大統領選挙人得票数 176 票。ミズーリ・テキサス・ジョージア・テネシー・ヴァージニアなどを獲得。ブライアンの敗北についてマイヤーズは、金本位制をめぐる論争によってではなく、「むしろわが国の景気の回復によって」([27], 262 頁) 敗れたのだと断言する。しかしながら、この金の供給の増加は、貨幣供給の増加は物価の上昇・雇用の増加・産出の拡大をもたらす、とするブライアンの主張の正しさを「劇的に立証」([13], p.758) したのである。

引用文献

- [1] Caughey, John W., and Ernest R. May, *A History of the United States*, Rand McNally & Company, 1964.
- [2] Dighe, Ranjit S. (ed.), *The Historian's Wizard of Oz*, Praeger, 2002.
- [3] Fisher, Irving, *Elementary Principles of Economics*, The Macmillan Company, 1915.
- [4] Fogel, Robert William, "The Union Pacific Railroad: The Questions of Public Policy," in Robert William Fogel and Stanley L. Engerman (eds.), *The Reinterpretation of American Economic History*, Harper & Row, 1971.
- [5] Friedman, Milton and Anna J. Schwartz, *A Monetary History of the United States 1867-1960*, Princeton University Press, 1963. Ninth Printing, 1993.

- [6] Friedman, Milton, "Bimetallism Revisited," *Journal of Economic Perspectives*, Vol.4, No.6, 1990.
- [7] Friedman, Milton, "The Crime of 1873," *Journal of Political Economy*, Vol.98, No.6, 1990.
- [8] Goodwin, Jason, *Greenback*, Henry Holt and Company, 2003.
- [9] Heilbroner, Robert L., *Beyond Boom and Crash*, W. W. Norton & Company, Inc., 1978.
- [10] Hoffmann, Charles, "The Depression of the Nineties," *Journal of Economic History*, Vol.16, No.2, 1956.
- [11] Laughlin, Laurence, *The History of Bimetallism in the United States*, D. Appleton and Company, Fourth edition, 1897.
- [12] Littlefield, Henry M., "The Wizard of Oz: Parable on Populism," *American Quarterly*, 16, Spring 1964.
- [13] Rockoff, Hugh, "The 'Wizard of Oz' as a Monetary Allegory," *Journal of Political Economy*, Vol. 98, No.4, 1990.
- [14] Timberlake, Richard H., "Repeal of Silver Monetization in the Late Nineteenth Century," *Journal of Money, Credit, and Banking*, Vol.10, No.1, February 1978.
- [15] Walker, Francis A., "The Free Coinage of Silver," *Journal of Political Economy*, Vol.1, No.2, 1893.
- [16] ガイスト、チャールズ R. 『ウォールストリートの歴史』(中山良雄訳)、フォレスト出版、2001年。
- [17] ガットマン、ハーバート G. 『金ぴか時代のアメリカ』(大下・野村・長田・竹田訳)、平凡社、1986年。
- [18] ガルブレイス、ジョン K. 『マネー その歴史と展開』(都留重人監訳)、TBSブリタニカ、1976年。
- [19] グリフィン、エドワード G. 『マネーを生みだす怪物』(吉田利子訳)、草思社、2005年。
- [20] ジョンソン、ポール 『アメリカ人の歴史 II』(別宮貞徳訳)、共同通信社、2002年。
- [21] 田口陽一 「J. クック商会の成立とその倒産」 東京大学社会科学研究所『社会科学研究』第24巻第3号、1973年。
- [22] チャーナウ、ロン 『アレクサンダー・ハミルトン伝 中』日経BP社、2005年。
- [23] バーナンキ、ベン 『リフレと金融政策』(高橋洋一訳)、日本経済新聞社、2004年。
- [24] ハンセン、アルヴィン 『財政政策と景気循環』(都留重人訳)、日本評論新社、1950年。
- [25] ベックハート、ベンジャミン 『米国連邦準備制度』(矢尾次郎監訳)、東洋経済新報社、1978年。
- [26] ボーム、ライマン F. 『オズの魔法使い』(大村美根子訳)、偕成社、1986年。
 同上 『オズの魔法使い』(幾島幸子訳)、岩波書店、2003年。
 同上 『オズのふしぎな魔法使い』(宮本菜穂子訳)、松柏社、2003年。
 同上 『オズの魔法使い』(河野万里子訳)、新潮文庫、2012年。
- [27] マイヤーズ、マーガレット 『アメリカ金融史』(吹春寛一訳)、日本図書センター、1979年。
- [28] American Corporation, *Encyclopedia Americana*, International Edition, 1965.